



十二支を、絵本などでよく見る動物たちの姿で、描いてくれました。

表紙を見た皆さんから「上手だね」「すごい上手！」のお声をたくさん頂きました。

酉年（とりどし）の鳥がフクロウなのが斬新で面白いですね。

主な内容

- ・横浜市子ども子育て会議 上澤副会長
- ・保育・就学部会（先輩お母様のお話・通級指導教室 個別支援学級の先生のお話）
- ・学校・青年部会（先輩お母様のお話）
- ・学・青・成 合同部会（横浜市への要望について回答）
- ・成人部会（グループホーム入居者の家族のお話・成人部会 会員現況調査のお願い）
- ・ぜんち共済／支援センター主催研修会のお知らせ／お知らせコーナー／第1回成年後見制度研修会のお知らせ、申込書
- 第32回横浜ラポール 芸術市場 ラポール美術展ご案内



R7.7.10(木) 学・青・成 合同部会
横浜市への要望について回答



R7.8.23(土) 保育・就学部会
通級指導教室、個別支援学級の先生のお話



R5.9.5(金) 成人部会
グループホーム入居者の家族のお話

ひろば

エンゼルの会 WMさん

（内容は編集して掲載）

今年の大河「べらぼう」の主人公は、江戸のメディア王、蔦屋重三郎。その類いまれなる発想力とフットワークの軽さを武器に、彼が営んだ本屋「耕書堂」の名の通り、書をもって世を耕し続けた人です。誰も気づかなかった隙間から発想の転換をもってアイデアを拾い上げ、面白い本を作る。

息子が今年、分教室に進学しました。最初こそ順調でしたが、思いもよらない斜め上の方向から崩れ始め、現在その対処に追われる毎日です。先日もつい怒鳴ってしまいました・・・いけないと分かっているけど、6秒すら待てません（笑） そんな時、私は蔦重の発想の転換や着眼点を変える姿勢と合わせ、心を思い出そうにしました。

蔦重は成功者の印象が強いですが、実は結構失敗しています。けれども常に次を見据えて動き続けられたのは、楽しい本を皆と共有したいという初志を貫いたからでもあると思うのです。

困った時には初心に帰る。すぐに結果を求めない。渦中にいると即解決したくなるけれど焦らない。できるだけ子どもの歩みに寄り添う。支援のかたちは人それぞれ。だからこそ私はこの初志を貫けるよう、自分の時間も大事にしながら日々を過ごしていきたいです。

